

田んぼは 小さな「野生の王国」

……トンボやチョウの各種、ゲンゴロウ、コオロギも

野村さんはこのほか、次のような昆虫とその幼虫などを観察。貯め池、水路をふくめた「田んぼワールド」は、小さな「野生の王国」だ。私たちは彼らと、緑地の自然を共有している。

小さな野生王国の住人たち（6月20日に観察）

◆ トンボとヤゴ＝クロスジギンヤンマ1、シオカラトンボのオス、メス各1、オオシオカラトンボのオス4・メス1、アジアイトトンボのヤゴ5が田んぼ横の水路に、同じトンボの羽化寸前の7がヤマユリ田んぼに。オニヤンマのヤゴ数十、ミルンヤンマのヤゴ3とクロスジヘビトンボの幼虫が山沿い水路に。

◆ チョウ＝キアゲハ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、スジグロシロチョウ、クロアゲハ、モンシロチョウ、キタテハ、コムスジ、ルリタテハ

◆ その他＝シュレーゲル・アオガエルのオタマジャクシ多数、ヒメゲンゴロウの幼虫が各田んぼに、大エノキより上流の水路沿いにエンマコオロギ。

樹上の卵（モリアオガエル） 半分に

★★★先週の観察メモ＝6月27日、晴れ★★★

レンゲ田んぼ北畦のクワに産みつけられたモリアオガエルの卵は、半分ぐらいに小さくなった＝写真右。一部はオタマジャクシに孵化し、約2メートル下の田んぼに落ちて泳いでいるようだ。



★★★先週の観察メモ＝7月11日、薄曇り★★★

ザリガニがこんなに：サクラ田んぼで、ザルや金属網でアオ

ミドロを掬っていると、ドジョウやザリガニが網に入る。それらを分けて、ボールやバケツに入れておいたら、ザリガニがこんなに＝写真左。少憩後のツクシ田んぼでも、南畦近くに多かった。

大型のザリガニは体長8センチほど。手を伸ばすと、赤いハサミを振り上げて威嚇する。これらが畦に穴を開け、水漏れの原因を作って、水当



番を悩ませている。

★★★先週の観察メモ＝7月18日、薄曇り★★★

マツモが繁殖：ツクシ田んぼに多い＝写真下。ペット屋で売っている「金魚藻」と思えばいい。名前のとおり、松葉に似ていて、水面下で繁茂する。水を浄化する効果があり、稲に害はないという。



★★★先週の観察メモ＝8月8日、晴れ★★★

オモダカが開花：クワイの仲間で、レンゲ、ツクシ田んぼに生えた。稲に害はなさそうなので、そっとしておいたら、上品な白い花を咲かせた＝写真左。田んぼ復元の結果、茂るヨシの下に埋もれていた植物が、次々に発芽・開花してきたが、オモダカもその一例に加わった。



ギンヤンマ、ことしも飛んで来た

イネツトムシ、カメムシ……害虫も続々と

★★★先週の観察メモ＝8月22日、晴れ★★★

ギンヤンマが飛来＝スミレ田んぼで草取りをしていた野村さんが「あ、ギンヤンマ！」。レンゲ、ツクシ田んぼの上を悠々と周回していた。飛んでいる虫を捕らえるのか、ときおり急上昇したり、反転したり。薄緑の目、ブルーの胸が宝石のように輝く。「トンボの王」の雄大きさは、シオカラトンボの比ではなく、オニヤンマもはるかに超える。

去年も9月中旬、田んぼを復元してから初めて飛来し、ネットに絡まった。ことしは飛び回るだけで、止まらないので、撮影できなかった。

稲の害虫が続々＝サクラ田んぼで1～4センチのイネツトムシ（イチモンジセセリのチョウの幼虫＝写真左）13匹を、4人がゴム手袋の手でつぶした。とても気色が悪かった。抜け殻もけっこうあった。「つと」は苞と書き、藁で作る包みをいう。この虫が稲の葉を折り重ねた中に隠れているので、そう命名されたのだろう。

折れた葉の中に、白いフトンに入ったクモがよくいた。イネツトムシを食べたのだろうか。ハエトリグモも多かったし、カマキリも田んぼごとに十数匹。彼らにイネツトムシの天敵になってほしい。

レンゲ田んぼで茶色のカメムシを2匹つぶした。非常に硬い虫だが、カメムシ類は穂の養分を吸うので、見つけ次第つぶす必要がある。



(野村さん)

こんな大きなカニが田んぼに

★★★先週の観察メモ＝8月29日、9月1日 晴れ★★★

甲羅の幅5センチ・モクズガニがレンゲ田んぼに：1日に水当番で見回っていて、レンゲ田んぼの給水口で見た。土煙を上げて水底を移動、脚で泥を掘り、もぐりこもうとした。甲羅が5×4センチほど。つかまえて撮影後、旧貯め池に放した。



自然観察の会の栗原義昭さんに写真を見てもらったところ、「広町の水系には多いモクズガニ」とのこと。ハサミがついている脚に長い軟毛が多くあり、甲羅の両側縁には3つの歯がある。6×5.5センチくらいまで大きくなるという。中華料理の高級食材シャンハイガニの親戚で、国内でも食用にされ、川に放流している地方もある。

キンヤンマ(♀)も来た ギンヤンマ(♂)に続き

☆☆先週の観察メモ=9月6日 晴れ、9日 曇り☆☆

キンヤンマがネットにからんで：9日昼すぎ、水当番の見回りをしている、スマレ田んぼで気づいた。キンヤンマはギンヤンマのメスに対する通称。オスの尾は黒っぽい、メスは茶に近い。

ギンヤンマは昨夏も飛来し、今夏はは8月22、29日と業中に連続して目撃したが、キンヤンマを見たのは初めて。羽4枚のうち、1枚がからんだだけだったので、そっと外したら、空高く飛び去った。

このヤンマの雌雄は、一面の田んぼ、湖、沼のような「開水面」に繁殖するが、田んぼに農薬が使われだしてから、全国的に激減した。鎌倉には寺社や公園の池が多いので、他地域よりは繁殖の場がある。飛翔力が強く、行動範囲が広いので、それらの開水面から「遠征」して来たのだろう。

私たちが汗を流して作った田んぼや貯め池で、ギンヤンマが繁殖したら、そのこと自体、「生物多様性の向上」に貢献していることの証明になる。

オニヤンマが田んぼに産卵：6日の作業開始前、野村さんと豊田がヤマユリ田んぼ南畦の草を刈っていたら、オニヤンマが目の前で繰り返し産卵した。山裾沿いの水路では、オニヤンマのヤゴを何度も見たが、田んぼではまだ見ていない。



☆☆先週の観察メモ=10月4日 晴れ☆☆

希少種のイボクサがサクラ、ツクシ田んぼの畦ぎわで咲いていた。田んぼを復元した3年前に、野村さんが1本見たあと、見なかった。葉の汁をつけると、いぼが取れるといわれ、淡いピンクの花弁が可憐な割りに、無粋な名前がついている=写真左。

カブトムシ幼虫など数十匹

☆☆先週の観察メモ

=12月6日 晴れ☆☆

カブトムシなどの幼虫：堆肥囲いの堆肥の中ら、白っぽい幼虫が数十匹=写真右。来年は成虫になりそうなカブトムシの幼虫も数匹いた=写真左下。他はコガネムシなどの幼虫だろう。

直接、手を触れてはいけない、と言われるので、そっと扱い堆肥囲いに埋め戻した。



カルガモがもう、やがてペアに

12月6日に作業を始めるとき、カルガモが1羽、畑の横の水場にいた。成鳥としては、ほっそりしている。あるいは、今春生まれか。

そのカルガモが3時間後、作業を終え無人になったレンゲ田んぼ横の水路に移動して、餌をあさっていた＝写真右。例年、カルガモはカエルが田んぼや貯め池、水路に産卵を始めたころ、姿を見せる。ことしはどうして、この時期に来たのだろうか。

3週間後の26日、ペアになっていた。レンゲ田んぼで作業中は、スマイレ田んぼの水路に。作業が後半、スマイレ田んぼに移ると、レンゲ田んぼ東側の水路で、しきりに餌を漁っていた作業を終え、帰りかけたときは、ヤマユリ田んぼに投げ入れた堆肥を、つついていた。堆肥の中に、越冬している昆虫の幼虫でもいたのだろうか。



ヤマアカガエルの産卵数、変わらず



★★★先週の観察メモ＝10年3月7日、小雨★★★

ヒキカエルの産卵数、18に：ヤマアカガエルの塊状の卵38が、4日までに確認されたが、10日に小坂、野村さんが見たところ、その後は増えていない＝写真右（ヤマユリ田んぼで）。

ヒキガエルの紐状の卵が6だったが＝写真左（同）、入口から南東の方角の竹ヶ谷をふくめ、18に増えた。



次は、田植えの準備にかかるころ、シュレーゲルアオガエルが泡状の卵を、主に田んぼの中に産む。

田んぼ脇の堆肥囲いの中でも、カブトムシやコガネムシの幼虫が、たくさん育っているが、市から譲り受けた堆肥にもいたことは、その成分が、有機栽培に適していることを物語っている。

空前の38塊 ヤマアカガエル産卵 = 10年3月7日

ヤマアカガエルの産卵開始について、ホームページ用の速報をお知らせしたが、その後の2日に貯め池に2、ヤマユリ田んぼに3塊の追加産卵があり、08年の35塊を上回る新記録になった。

ヒキガエルも6本

さらにヒキガエルの紐状の卵が、田んぼ下の耕作放棄田とヤマユリ田んぼに各1、山裾沿い水路上流の「カエル池」に3、浄化池に1の計6を4日に確認。この春はカエルの産卵ラッシュか。

